



イギリス研修に行ってきました！

未来創造コース2期生（新3年）6名とグローバルリサーチⅡ受講者（新3年）4名の計10名が、イギリスのロンドンおよびヨークにおける7泊8日（3月19日～26日）の研修旅行に参加しました。ヨーク大学での研究発表や現地の高校生との交流、市街地でのフィールドワーク等のイベントを予定通りに終え、全員元気に帰国しました。研修旅行の詳細は兵庫高校ブログに掲載しています。

《生徒の感想》

私が今回のイギリス研修に行きたいと思ったきっかけは、英語を使って自分がどれだけコミュニケーションをとることができるのか知りたかったから、というのがありました。最初は研究発表を英語ですることに戸惑っていましたが、事前学習を通してプレゼンテーションの仕方などを1から学ぶことが出来て、どうすればもっと自分の考えが伝わるかを考えるようになりました。イギリスでは、実際にヨーク大学で研究発表をさせていただきました。Q&Aの対策はしていきましたが、事前学習とは全く別の視点からの質問が多く、スムーズに答えることが出来なかったのがとても悔しかったです。大学では、日本人を含む多様な民族の生徒が入り混じっている風景があり、なかなか日本では見ることの出来ない光景なので、とても新鮮で、楽しそうだなと思いました。私たちはロンドンに移動してから、高校にも行きました。そこで1番印象に残っていることは、私よりも2歳くらい年下の子たちによるディベートです。自分の意見を堂々と語る姿はとても輝いて見えて、自ら積極的に絡んでいく



姿はかっこよかったです。一部の生徒との交流の場でも、先生が手伝いを求めるとすぐに手があがっ



たり、思うことをその時に発言する生徒達の姿に刺激を受けました。授業形態も日本とは全く違って、その子その子のレベルに合わせてみんなが別のことをしていることもあり、そういうシステムのなかで、自分を強く持つことが備わっていく気がしました。この研修を通して、大学へ行ったら海外で学びたいという思いがとても強い思いになりました。多様な民族の人たちと触れ合っ人脈を広げることが出来るイギリスの大学は本当に魅力的で、自分から積極的に授業に取り組む姿に憧れるからです。そして文法だけで英語を使おうと思っても意外と難しいもので、考えて綺麗な文法で話すよりも会話のラリーを途切れさせない速さで返す方が伝わりやすいことが分かったのが大きな収穫です。学校での英語の勉強はもちろん、会話を楽しむことが出来るくらいの英語力を身につけることができるよう取り組もうと決めました。今回はイギリス研修に参加できたことに感謝したいです。自分の高校生活で一番の刺激を受け、将来についても目標ができました。ありがとうございました。

◆ 創造科学科1期生 (2-8) ◆

5班 4/9 実践活動：看板を制作！

「六間道商店街に10代を呼び込もう！」をテーマに研究している創造科学科1期生（新2年）社会科学分野5班が、実践活動として、介護機能付きシェアハウス「はっぴーの家ろっけん」の看板を制作しました。はっぴーの家ろっけんの代表取締役である首藤さんから看板作成の提案を受け、r3の合田さんの協力を得ながら、12月から企画を練り、3月に施設で制作を続け、完成させました。はっぴーの家ろっけんのコンセプトである世界をイメージしながら、r3のコンセプトである廃棄物を資源に変える手法で看板を作りました。お披露目のあと合田さんと首藤さんを交えてふりかえりをおこないました。



《生徒の感想》

長かったようで短かった一年をかけて行った社会科学が今回で終わりました。研究を始めた当初のやりたかったことを思い出してみると、今とは繋がりもしないようなことばかりで改めて驚きました。このような、どの方向性に進むかわからないことも研究の醍醐味なのかなと思います。最終的に、私達の班は介護福祉施設「はっぴーの家ろっけん」の看板を製作しました。そしてこれを作ることにしても、初めに思い描いていたようなものにはならず悩むこともありましたが、結果的に楽しく行うことができ良かったです。またこの看板は、世界旅行をモチーフにしたこの施設のイメージに合わせることができたと思います。最後にこの活動に協力して頂いた合田さん、首藤さん、その他の方々にこの場を借りて感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

3/28 オリバーソース HP 掲載

オリバーソース株式会社ホームページに、「ソースの挑戦」をテーマに研究を行った社会科学分野1班の活動内容と、生徒が発案した「このみちゃんの長田おにぎり」のレシピを掲載していただきました。新長田まちづくり会社社長の宍田氏からオリバーソースの総務課係長の津田氏を紹介していただき、ホームページ掲載の話すすめて、28日付で掲載されました。詳しくはオリバーソースホームページをご覧ください。



3/18~19

第4回シティズンシップ教育ミーティング

立教大学 池袋キャンパスの本館および12号館において、創造科学科1期生(新2年)の6名が、J-CEF主催「第4回・シティズンシップ教育ミーティング」に参加しました。プログラムは以下のとおりです。

1日目(3/18)

- ◆ オープニング
- ◆ 全体会「シティズンシップ教育で育む『市民』とは？」
講演：小玉重夫氏(東京大学大学院教育学研究科教授)、
湯浅誠氏(法政大学現代福祉部教授・社会活動家)、
桑原敏典氏(岡山大学大学院教育学研究科教授)
- ◆ 交流会

2日目(3/19)

- ◆ 自由発表セッション、授業体験会
- ◆ 分科会
- 第1セッション「小・中・高校における対話の場づくり」
- 第2セッション「いまのグローバル化の流れの中でどのようなシティズンシップ教育を進めるべきか？」
- 第3セッション「社会責任を果たす経済主体をどう育むか?～学校と企業の連携の取組から学ぶ～」
- 第4セッション「主権者教育を高校から大学へどうリレーしていくか？」
- 第5セッション「シティズンシップ教育の社会的意義を『評価』でどう表現するか？」
- ◆ 全体会「高校生・大学生発表セッション」
- ◆ クロージング

本校生徒は、『高校生が考える「模擬選挙」の課題』、『学校設定科目「RRE」での学び～留学生との交流を通じて～』の2タイトルについて、口頭発表(30分)を行いました。



《生徒の感想》

2日間のシティズンシップ教育ミーティングを通して本当に多くの刺激を受けた。刺激というのは、単に大人の話聞いたことによるものだけではなく、自分から積極的に話をしに行かなければならないという環境に置かれたということが非常に大きかった。大学教授、NPO 法人で幅広く活動されている方、小中高の教員など、さまざまなことを行っている、多様な考え方を持っている方々が同じ話題について話し合う。多くの実体験を共有する。私はその幅の広さ、論理の深さに圧倒された。その中でまだ経験の浅い私たち高校生の意見にも耳を傾け、対等に対話をしていただいたことも大きな驚きだった。2日目におこなったセッションで大学教授やシティズンシップ教育に関しての研究や見解を聞き、質問や意見を言わせていただいた。議論の内容が非常に高度でついていけない部分もあった。だが、自分たち高校生でも考えることが出来る課題がある。今、教育の場では生徒の素直な意見が大事にされていることを聞き、教育というものの形態が時代に合わせて少しずつ変わっていくのだなと感じるとともに、私たちが変えられることもあると強く感じた。この経験で、私は新たな目標を持つことができた。色々な場所で何かと戦い、何かを改善する大人に出会ったことで、本気でやれば出来ないことはないのだと思った。今回痛感した自分の未熟なところ、また伸びたところにしっかりと向き合い、自分の力をさらに伸ばしたいと思う。名刺をこんなにも交換したのは初めてで、一気に人脈が広がった気がする。今回出会った方々のような「すごい大人」になりたい。

◆ 未来創造コース2期生 (3-8) ◆

3/19 創造応用 I SGH甲子園

関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパスにおいて、未来創造コース2期生(新3年)の生徒7名が、関西学院大学・大阪大学・大阪教育大学主催の「SGH 甲子園」に参加し、創造応用 I で取り組んだ課題研究について、ポスター発表を行いました。発表タイトルは次のとおりです。

「ベトナムに進出する日本企業における労使関係改善への考察」

「これからの日中間での交流と関係構築のあり方

～両国のメディアと世論の改善について～」

「ベトナム農村部における薬剤耐性へのリスクマネジメント」

「長田区片山町1丁目の防災意識

—地域に密着した防災マップ作り—」

「ゼロ円電池作ってみた」



《生徒の感想》

今回 SGH 甲子園に参加して思ったことは、伝え方が重要だということです。これを特に感じたのはポスター発表の最優秀賞に選ばれた高校と英語プレゼンテーションの最優秀賞の秋田県立秋田南高校を見た時でした。ポスターの高校は題名が興味を沸かせるもので、来てもらうための伝え方だと感じました。プレゼンテーションの秋田南高校はステージを広く使い、ジェスチャーを交え、英語がわからないところでもある程度想像して理解することができました。自分の発表は題名も堅苦しく、発表の仕方もいたって普通であったので、今後発表する機会があれば、これらの学校の発表を見習って伝え方を意識して取り組みたいと思います。

ポスター発表にはうまく言いたいことがまとめられなかったことから、一抹の不安を覚えつつ挑みましたが、やはり早口かつ難解な言葉を使っているため分かりにくいという指摘をいただきました。また、研究に深く関わる心理学に関する意見もいただきました。集団的な心理を利用した情報だけに踊らされることなく、しっかりとした裏付けを取り、論証するという基本的なことが大事だと改めて分かりました。

3/25

第7回長田区高校生鉄人化まつり

新長田若松公園鉄人広場において、KOBE 鉄人PROJECT 主催「第7回高校生鉄人化まつり」が開催されました。このまつりは、平成22年度に長田区主催の「第2回鉄人まちづくりイベント」に応募した創造科学科の前身である総合科学類型1期生の提案が最優秀賞を受賞し、長田区に所在する高校のさまざまな活動発表の場として実施されるようになったものです。創造科学科1期生（新2年）の5名と育英高校の生徒会2名、神戸野田高校の生徒会2名とで実行委員会を組織し、企画、運営を行ってきました。また、今年度は実行委員長を育英高校の生徒が担うことになり、このまつりが長田区内の高校生のものに浸透してきました。今回のテーマは、「ぼくたちの長田物語」です。



本校からは、書道部、ギターアンサンブル部、ダンス部、弦楽部と吹奏楽部が出演しました。また、創造科学科1期生を含む生徒24名による「石巻焼きそば」と、創造科学科1期生社会科学分野3班による実践活動として「多文化共生唐揚げ」の出店販売、創造科学科1期生がこの1年で取り組んだ社会科学分野探究活動のポスター展示を実施しました。たくさんの方々にご協力いただき、今年も大盛況となりました。ありがとうございました。

《生徒の感想》

約半年間、実際に会議など準備をしていくうちに、イベントを作り上げることの難しさを実感しました。特に屋台において、至らないところもあり直前になっても詳細を決めきれていませんでした。しかし、それでも実施できたのは先生方やボランティアの方々など多くの人の支えがあったからだと感じています。実行委員だけで最初は進めてしまっていたのですが、途中からそれでは回らなくなってしまい、やっと周囲に頼り始めました。もっと早くから協力

をしていけば、もっとより良いものにできていたかもしれない、と考えています。少し課題の残る結果にはなりましたが、協力の大切さを学び、私たちなりの「長田物語」を作れたのではないかと思います。

約3ヶ月の間、鉄人化まつりの実行委員として活動してきた。自分の担当を先生方に急かされるまで準備をしなかった事は深く反省している。チーム内でも連携はとれず、やってる人ややってない人の差も生まれており、準備段階ではうまくいかないことが多くあった。シフトも前日まで決まらず、迷惑をかけてしまった。本番は何とかそれなりに回ったものの、まだまだ改善点は沢山あり、もっとクオリティをあげられる箇所や円滑に作業ができた箇所もあったと考えている。責任感不足を痛感した。

今回の鉄人化まつりで私は祭り、イベント等の裏側を覗くことができたと感じた。約5ヶ月の間、育英、神戸野田の生徒達や先生方と協力して、祭りを一から作っていったのだが、もっとも難儀だったことは店の運営であった。シフト組み、予算や買う店への連絡など、会議では間に合っておらずなども指摘されとても焦りがあった。なんとか祭り当日までに間に合わすことができ、完売することができたが、計画通りにはできなかつたのが悔やまれた。委員だけでなく、ボランティアの方々とも一致団結することができ、鉄人化まつりという伝統を繋ぐことができたというのはとても嬉しいことである。成功できて本当に良かった。



他にも、様々な活動や発表会に参加！

3/15 長田区長インタビュー

ふたば学舎（神戸市立地域人材支援センター）において、創造科学科1期生（新2年）の3名が、平成29年度の長田区計画・まちづくりに関して、長田区長 烏田政明氏にインタビューを行いました。これは同区の4月広報誌の企画で、まちづくり課の職員から年度計画のレクチャーがあり、その施策のうち、生徒が気になったことについて区長に伺うというものです。

《生徒の感想》

今回、長田区の平成29年度の政策について長田区長にインタビューさせていただき、多くのことを話していただいた。私は地域と進める認知症高齢者支援事業について深く伺った。私は高齢化の問題についてWHOの方の話や研究発表で聞いたことがあり、興味を持っていたが、理屈では聞いたことがあっても実際どのように対策を取るのか、どのように関わればいいのかは分からなかった。長田区では認知症の講座があり、それを受けると認知症サポーターになることができるようだ。参加者を見ると、実際に未成年の方はいない。それは問題なのではないかと感じた。高齢化率が32.5%で、市内で最も高い上に、これからどんどん高齢者は増加していく。認知症の方も増えてしまうだろう。その中で街を支えていくのは今の未成年、学生ではないか。もっと学生の参加を促し、高齢者、認知症の方に優しいまちづくりをしてほしいと感じた。区長さんはとても話しやすく、気さくな方で自己紹介から楽しく和やかな雰囲気でのインタビューができた。このような雰囲気が作れる人になりたいものと思った。



ている行事に興味をもちました。長田区の人々は人情味が豊かなので高校生の人達が行事に参加してくれると地元の人達も喜ぶだろうとおっしゃっていたので参加してみようとも思いました。今後、長田区のことをより知っていったらとも思いました。

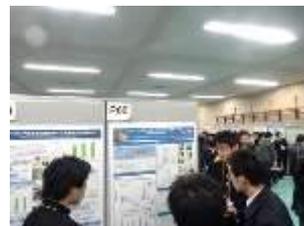
3/18 グローバルリサーチ

「ジュニア農芸化学会2017」

京都女子大学体育館において、グローバルリサーチⅢ受講者（新3年）の1名が、日本農芸化学会主催の「ジュニア農芸化学会2017」に参加し、「ベトナム産漢方薬の生理活性に関する研究～原材料との比較～」というテーマでポスター発表を行いました。この研究は、ベトナム研修の事後研究として取り組んだものです。

《生徒の感想》

発表の時にやたらと質問してきた人が終わってから武陽会であるというカミングアウトに驚きました。また、その人からの質問をお伺いして、まだまだ至らない点がたくさんあることに気づきました。今後は更に多角的な視野を持てるようになりたいです。



今回のフィールドワークでは長田区長である烏田区長にインタビューをさせていただきました。烏田区長とのインタビューのなかで、通学をしている場所としか認識していなかった長田のことを学ぶことができました。そのなかで長田区の各地域で行われ



SGH事業に関する予定表 2017年5月

兵庫県立兵庫高等学校 SGH 推進委員 発行

		SGH/コース/学科 関連行事	学校行事
1	月	GRIII / 〈15:40～ PC 教室〉 論文読み合わせ	
2	火	1-8 / 創造基礎 B 〈7限 PC 教室〉 テーマに関する調査 研修旅行 (ベトナム・イギリス) 希望理由書 提出締め切り (17時)	金曜授業 (1-8のみ火7限実施)
3	水		憲法記念日
4	木		みどりの日
5	金		こどもの日
6	土		
7	日		
8	月	研修旅行 (ベトナム・イギリス) 希望者発表① (朝 ホワイトボード) グローバルリサーチⅠ希望者へのガイダンス 〈12:05～ 会議室〉	壮行会 (短縮授業 45分×6限)
9	火	1-8 / 創造基礎 B 〈7限 PC 教室〉 テーマに関する調査 or FW	
10	水		定期戦
11	木	研修旅行 (ベトナム・イギリス) 変更希望届・希望理由書 提出締め切り (17時)	
12	金	研修旅行 (ベトナム・イギリス) 希望者発表② (昼休み ホワイトボード) 1-8 / RRE 〈6限 PC 教室〉 「日本の初等教育」 調査・ポスター作成	
13	土		土曜教室
14	日		
15	月		
16	火	1-8 / 創造基礎 B 〈7限 PC 教室〉 テーマに関する調査 or FW	尿検査
17	水	2-8 / 創造応用 IS 〈5～6限 2-8〉 探究活動 (物理 or 生物) 創造応用 IL 〈5～6限 ゆ～かり〉 講義「研究とは何か」 大阪大学大学院国際公共政策研究科 大学院生	尿検査
18	木		内科検診
19	金		中間考査 (1日目)
20	土		
21	日		
22	月		中間考査 (2日目)
23	火	考査期間中のどこかで実施	中間考査 (3日目)
24	水	1-8 / 創造基礎 B 〈ゆ～かり〉 課題解決のためのワークショップ	中間考査 (4日目)
25	木		中間考査 (5日目)
26	金	1-8 / RRE 〈6限 PC 教室〉 「日本の初等教育」 調査・ポスター作成	
27	土		
28	日		
29	月	研修旅行 (ベトナム・イギリス) 参加者発表 (昼休み ホワイトボード) GRIII / 〈15:40～ PC 教室〉 論文完成・提出	眼科検診
30	火	1-8 / 創造基礎 B 〈7限 PC 教室〉 発表準備	
31	水	2-8 / 創造応用 IS 〈5～6限〉 内容未定 創造応用 IL 〈5～6限 PC 教室〉 論文の書き方・資料集め	眼科検診
備考	GRⅠ：グローバルリサーチⅠ受講者 (普通科1年生), GRⅡ：グローバルリサーチⅡ受講者 (普通科2年生) GRⅢ：グローバルリサーチⅢ受講者 (一般クラス3年生), FW：フィールドワーク		
今後の活動	GRⅠ/イギリス研修/ベトナム研修 選考面接 (中間考査中の放課後)		